





世界の人形劇の本は、どれも個性的で優れたデザインを表紙に飾られて、美しく魅力的



オブラストオーフの本  
モスクワ中央人形劇場創設者のセルゲイオブラストオーフは、いまでもなく世界の人形劇の芸術性を高めた人で、彼の「私の仕事」という著作は1950年刊の直後から英語、フランス語をはじめ世界各国で翻訳され、日本でも1955年と1979年に大井数雄が訳して出版。その各国語版をすらすらと並べてみれば何かが見える



先に開催された「世界の人形劇100冊の本」では、1万冊を超える蔵書から、美しく魅力的な表紙の本が選ばれ、タイトルを優に超える200冊近くが展示されました。  
欧米の洋書はもちろん、日本の伝統人形芝居も、アジアの本も、すらすらと並べられたさまはなかなかの壮観。手に取って読めるコーナーが設けられ、豪華本も含む和洋の代表的な20冊を実際に広げてゆくり見ることができると好評。来場者からは、機会あれば人形劇の図書館へ行ってみたいと、グループで訪問するという話が盛り上がるほど。もちろん、人形劇の図書館では、館長・瀧見英明氏の解説付きですべての貴重書を含む図書、資料を見ることが出来ます。  
人形劇の図書館は、国内唯一の人形劇専門図書館で、現代人形劇を中心に伝統人形芝居からアジア、欧米の洋書、雑誌など1万点以上の蔵書が所狭しと開架書棚に並んでおり、一度に5人以上は入れないというから、足の踏み場もないという表現がぴったり。そこには貴重な図書資料が並び、超々が付く貴重な資料もさりげなく混ざって、人形劇関係のみならず幅広いジャンルの研究者もほかでは見つからなかった資料を求めて訪れるといいます。  
各地でもコレクション展が開催されていますが、飯田における展示は継続的に行われてきたので、次はどのような内容なのか、そのたびに期待が高まるのです。

特集  
人形劇の図書館コレクションから  
ふたつのすてきな展覧会

# ① 世界の人形劇 100冊の本



人形劇の図書館コレクション展は、上演だけでなくさまざまな視点から人形劇・人形芝居を楽しんでもらおうと、所蔵の図書・資料コレクションから幅広く興味を感じてもらえるように、数々の展示を行っています。

今回の特集「ふたつのすてきな展覧会」は、先に開催された「世界の人形劇100冊の本」展(2017年11月~12月)と、新年開催の「めでたやめでたの人形芝居」展(2018年1月~2月)の、ふたつの展覧会の紹介です。



「女夫同士意裏表・めおとどうしころのうらうえ」

国周画 1878(明治11年)  
浮世絵で人形芝居を画題としたものはもと多くはないが、さらに実際の人形芝居ではなく歌舞伎役者を人形遣いに見立て描いたものが相当含まれる。これも新作歌舞伎を描いた見立て絵。初演は新富座で、浄瑠璃ではあるが義太夫ではなく清元による演出



三番叟人形 大江巳之助作 6.5cm  
展示用として製作されたもので、小振りだが作りは構造も機巧もまったく舞台用と同一。傀儡師の人形まわしはこれくらいの大きさであつたのではないかと思える。また、注文者にあつた葉書と領収書が付随しており、資料価値が高い。



新義座飯田公演辻番付  
1938年4月 オフセット 46X31cm  
[「大飯田建設」などであるのは、80年前の飯田市のはじまりを意味し、その記念公演といえる。浄瑠璃の新義座と人形の乙女文楽一座による公演。太夫はその後文楽座の大看板となる中堅どころ。乙女文楽もちょうどこの頃創案された新しい人形芝居



引札 大正頃 石版摺  
正月など商店が得意先に配布することが多い、広告媒体。商品ではなく商店のイメージ広告といえるだろう。餅をつくこどもたちの後には、大きな鏡餅を、えびすを先頭に七福神が運んでいる



人形劇の図書館コレクションから  
めでたやめでたの人形芝居展 2018年2月20日(火)まで開催  
会場:飯田市川本喜八郎人形美術館 入館料:大人400円・小中高生200円 ※水曜休館

コドモノクニ人形芝居  
1924年1月 5.5x7.8cm  
倉橋惣三考案、坪内逍遙脚本、岡本帰一画と、超一流どころが製作した人形劇の切りぬきあそび。切りぬかれてしまつて現存はごくわずか。ちよつと現代人形劇の始まりの時の、子どもたちはこの頃から人形劇の観客となつたのだつた

特集  
人形劇の図書館コレクションから  
ふたつのはすてきな展覧会

## ② めでたやめでたの人形芝居展

### 人形芝居展



えびす風  
佐渡島手描明治頃

続いては、「めでたやめでたの人形芝居」展。飯田では今年「世界人形劇フェスティバル」が開催されます。「人形劇カーニバル」の時代から40年の節目でもあり、初春だけではない重なり「めでたやめでた」。



「傀儡師が題材としてよく取り上げられていて、摺物の中では、身近な存在の人形芝居(人形まわし)なのです。

えびすかしら  
天狗久作  
昭和初期頃  
阿波の人形まわしが違っていかしらで、阿波では正月にえびすまわしが各戸を門付してまわり、えびすまわしが来なければ正月が迎えられないという家が今もあるという

正月と人形芝居といふかわりて欠かせないのは、まずは「えびす」と「三番叟」。どちらも人形芝居となる以前の「人形まわし」として遣われ、人形浄瑠璃でも新春の公演はもちろんのこと、舞台を清め、めでたき祝詞をならへて、まずはこれから始まります。えびすが言祝ぎ、三番叟が舞うことで新しき良き始まりとなるのです。

浮世絵版画手摺り木版順序  
大阪文楽座人形画集より「畠山重忠」長谷川小信画 大正末頃  
18枚の版木を重ねて摺る浮世絵の、その順序に従い18枚を並べ、浮世絵が出来上がっていく過程を見せる、どのようにして浮世絵が摺られていくのか、とても興味深い展示で必見です



『文楽座人形画集』は、木版で摺られた版画集。12点一組の何段かに分け、大正末から昭和にかけて発行された。いわば趣味人の収集のためのもので、決して安くはなかったがそれなりに売れたようだ。この他にも同様の文楽版画集が複数同時期に他社からも発行されている。こうした版画の摺りの順番を見せるものをセットにして別売するのも珍しい



台本はリーダーの森山幹夫さん(写真左)が担当。何回も書き直したものをメンバーの寺田真由美さんと読み合わせ

長野県ツニア大学飯伊学部に参加する60歳代の仲間3人で結成した「ふたご座」。平成28年度の人形劇講座初級コースを受講し、「信州・飯田警女(こせ)民話集」から「月日のたつのは早いもの」を題材に作品づくり。飯田の方言を取り入れ、「ああ、なるほど」と思わせるオチで笑わせるなどの工夫をこらし同世代はもちろん、子どもたちの反応が好評だったこともあり、昨夏から中級コースへステップアップ。意欲的に新作に取り組んでいます。

2作目に選んだのは、「警女民話集」から「くわん、くわん」。ぼた餅が大好きな和尚さんと、どちらの得意な小坊主が登場するお話です。ふたご座リーダー森山幹夫さんは「我々の年代になるとセリフを覚えるのがひと苦労。でも、人形劇ってやってみると楽しくてね」と人形を作る手を休めて話してくれました。

## ふたご座 「信州・飯田警女民話集」から 2作目に挑戦

ウレタンをカットして  
小道具のぼた餅を  
つくる



初めての作品は太陽や月を擬人化した人形だったが、新作では人間の人形を制作。「扱いが難しくなるねえ。稽古たくさんしないと」と寺田さん(写真手前)。完成は4月ごろを目標にし、8月のいいだ人形劇フェスタで上演予定



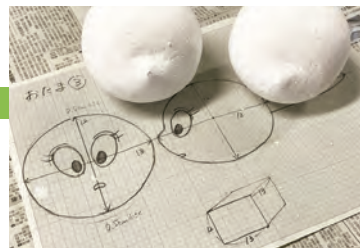
講座の1回目。作品の舞台イメージ、人形のデザイン画を用意して講師とディスカッション

突撃!!

## 人形劇の ゲンバ Part16 スペシャル

市民劇団の新たな作品づくりを支援する「人形劇講座中級コース」。これまで受講した劇団の中には完成した作品を台湾のフェスティバルで上演して活動範囲を広げたり、一年以上かけて一人芝居の作品づくりに励む姿もみられます。平成29年度は新たに2劇団が受講し、新作をつくっているとの情報をキャッチ。さっそく「ゲンバ」をおさえるべく、直行しました!

## でんでんむし 2019年夏の完成めざし、 じっくり時間をかけて作品づくり



上伊那飯田在住のメンバー7人で活動する「でんでんむし」。年間約60公演をこなす「売れっ子」劇団です。結成から10年、自己流で作ってきた人形や芝居の構成を見直すためにプロの指導を受けながら、じっくり作品づくりをしたいと昨年10月から受講しています。選んだ題材は、つけくわえ作「おたまじゃくし海へ行く」。10月下旬、公演で飯田を訪れたつげさんから作品づくりのアドバイスを受けた代表の上沼則子さんは「ご本人とお話しできて光栄です。これもめぐり合わせかな」と話します。

美術担当のメンバーが描いたデザイン画をもとに、主人公のおたまじゃくし3匹の人形づくりから開始。発泡スチロールを削り、布をはく、と初めてのことながらこれまでの経験が生きている様子。1月からは講座の内容を変えて舞台に立つためのカラダづくりにも挑戦。「声の出し方、人形の遣い方、カラダの使い方などせつぱくなら自分たちも鍛えたい」と、意気込みメンバーの皆さん。完成まで待ち遠しいですね。

デザイン画をもとに人形づくり。主人公のおたまじゃくしは発泡スチロールで作ったが、そのほか登場するカエル、クジラなどのキャラクターは大きさや遣い方で素材を変えながら作る予定

1月から始めた舞台に立つためのカラダづくり。ストレッチや体幹を鍛えるほか、講師はメンバーのリクエストに応えたプログラムを組んで指導



## わくわく イベントスケジュール

### 保育士人形劇研修発表会

2月10日(土)10:00-13:30開演  
会場/飯田市竜丘公民館  
料金/200円(3歳未満無料)

### いいだ人形劇まつり りんごっこ劇場vol.14

2月18日(日)10:30開演  
会場/飯田女子短期大学アカンホール  
料金/200円(3歳未満無料)  
出演/地元アマチュア劇団7組

### せかいの劇場vol.6

2月21日(水)18:30開演 会場/飯田人形劇場  
出演/ナイン人形劇場(チェコ)「空からきたひつじ」  
料金/大人2,000円、子ども(2歳~中学生)1,000円、  
おやこ2,800円 ※2歳未満無料

### 人形劇定期公演 2月

2月25日(日)10:30開演 会場/飯田人形劇場  
出演/エリユリ「ぐりとぐら」ほか 料金/200円(3歳未満無料)

### 人形劇定期公演 3月

3月3日(土) 岐阜市、飯田市交流公演  
会場/飯田人形劇場 料金/200円(3歳未満無料)

### 人形劇ユースクラブ新作発表会

3月10日(土) 会場/飯田人形劇場  
中高生メンバーによるオリジナル作品  
「恋する河童くん」を上演

### 人形劇団ブーク公演

3月16日(金)18:30開演 会場/飯田文化会館ホール  
作品/「うかうか三十、ちよろちよ四十」  
料金/大人2,000円、小中高生1,500円



人形劇のまち飯田の季刊情報誌

# Dogushi 冊串 表紙原画展



## 季刊誌の表紙原画 20点勢ぞろい

2013年5月に創刊してから5年。年4回の発行を続け、2018年2月で第20号の発行となりました。これを機に、創刊号から第20号までの表紙イラストを手掛けてくださった飯田市の会社員・井原千代子さんの原画20点を一堂に集め、展示します。“人形劇”というジャンルにこだわらず四季折々に感じる情景や、特集記事にあわせて描いた作品は一つの絵画としても見応えがあります。印刷では表現しきれない繊細な細工を施した原画をぜひご覧ください。

**3月15日(木)~4月27日(金)**  
**飯田市川本喜八郎人形美術館2F交流ゾーン**  
※観覧自由・無料、水曜休館(3/21は開館)



### 劇団すずらん

阿智村在住の元気なお母さんたちが中心になり活動する「劇団すずらん」。人形劇講座初級コースに参加し、昨年5月から6カ月かけて『大きなかぶ』をつくりました。「スチロールを削ったり、糸ノコを使ったり、人形づくりを一から教えてもらい貴重なた体験だった。時間をかけてつくった人形たちはかわいく見えるし、長く上演できる



昨年12月の人形劇定期公演の上演後、飯田人形劇場にて

デザイン画をもとにスチロールの角をカッターで削り、人形のかしらをつくります。「どこをどう削ったら形になるのか」と思ったけど、進めていくうちにどうかなるもんだな]



「最初はとても緊張したけど慣れてくると楽しいなあ」電動工具を使うのも初めての体験

作品にしていきたい」と、代表の熊谷佳子さん。これまでは譲り受けた人形を物語に合うよう組み合わせさせて上演していたため、本作の出来栄えにはメンバー全員が満足しているそう。

昨年11月から阿智村内の保育所3カ所で上演を重ね、12月の人形劇定期公演で講座の成果を発表しました。「大きなかぶを抜く時、どの会場でも子どもたちが『うんとこしょ、どっこいしょ』と一緒にうたを声にかけてくれたのがうれしかったなあ」とメンバーから笑みがこぼれます。「人形の動かし方、セリフの言い方など稽古を重ねてあちこちで上演したい。新作もつくれば」と新たな目標をたてる「すずらん」の皆さんで



“小さな語り小屋”は「くぐつ・菘(いおり)」と呼んでいます。150人ぐらいの方から支援していただき2016年11月オープンすることができました。第3日曜日は、栃木県のアマチュアサークルの上演「さんさんさんでーおはなし会」や夜は囲炉裏を囲んでの「語りの会」また「禅の楽校」など



小さな人形劇場「くぐつ・あとリエ」は17年前300人以上の方からカンパをいただき建てることができました。毎月第1日曜日は月替わり人形劇場。人形劇回くぐつが上演したり、県外のプロ人形劇団に来ていただいたり親子で楽しめるコンサート等も開催しています

り小屋も建ちました。子どもたちも大きくなり、孫もできました。こんな幸せな人生はありません。

今、改めてこの幸せな人生をくれた人形劇に感謝しきりです。そして、その人形劇を学ばせてくれた(今までいっただい何百の未知の日本の、世界の人形劇に出会えたことだしよつ)飯田にも感謝感謝です。

「にんげんってイナアー」としみじみ思える時があります。

それはやっぱり、本物の人形劇を観た時です。人は、人と触れ合って思いを共にできた時に人間として成長できます。もちろん憎しみではなく喜びの共有です。私は、「にんげんってイナアー」と素直に大人でも思える人形劇が大好きです。

昨年、何年振りかで飯田に行くことができました。私にとつての初めての飯田は「第2回目のカーニバル」です。宿は寺の本堂の大広間に雑魚寝で、寝る前には他劇団の人たちと「人形劇」を熱く語り論じ演じたの思い出します。そうです、みんな熱かったナァー(夏だったし、若かったし、貧しかったし)。あれからもう40年近く、今は自分の劇団を夫婦2人で、地域に根を張ってコツコツとやっています。小さな人形劇場と、小さな語

**全人協通信  
専門人形劇事情⑦**

## 地域劇団の つづやき

人形劇回くぐつ  
小川 守

一般社団法人  
全国専門人形劇団協議会(全人協)  
人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を広げることがめざし、1997年に発足。51劇団が加盟しています。